

いのちと地域を守る



(45)



(27)



(34)



(46)



(24)



(25)



(45)



■ むすび塾に参加して

【被災地を観察して】初めて訪れたのは3年前。映像では知っていたつもりだったが、自分の目で見て頭を殴られたみたいだ。震災から6年が経過したが、土砂を運ぶダンプがひきり

【被災地を観察して】防災報道は正しい知識を伝えることだけでなく、議論を深めるための工夫がもっと必要だと感

【被災地を観察して】福知山支局時代の2014年8月、豪雨被害に遭つて自宅や車が水没し、記者と被災者の立場に悩んでいた。防災はまちづくりの側面もある。地方紙の強みである地域とのつながりを生かし、地域防災を考える場を提供すれば住民の意識が高まり、共助の意識向上も期待できる。宮崎日日新聞社報道部記者・赤塚盟さん(32)

記者ひとこと
記者ひとこと



津波で流された車が残る気仙沼向洋高の旧南校舎3階=1月28日、気仙沼市波路上



啓発文化どうつくる

田中 淳さん

防災に正解はないのだが、防災啓発報道には「正しい知識を伝える」という姿勢が強く、それが説教くさや現場に合わないということにつながっている。「考えさせる防災」を真剣に追求すべきだ。

「3・11」以降もジャーナリズムは変わっていないという危惧がある。震災を知らない記者がこれから増えていくが、「(防災啓発)」の文化をどうつくり維持していくかが問われている。

【被災地を観察して】津波被災地に

【被災地を観察して】JR仙石線の旧野蒜駅舎を見学する参加者たち=1月27日、東松島市野蒜

【被災地を観察して】JR仙石線の旧野蒜駅